



# 夏期保育計画

木村時枝

N.T.

(→) 夏休み期間。七月二十日より九月四日迄

(⇒) 登園日。八月一日。二日。十一日。十二日。二十一日。二十二日。三十一日。九月一日。

(⇒) 早朝保育。七月二十日より一週間実施。

一、場所。森林、川辺、木影のある

広場、草原。

一、登園時間。七時集合。

一、園児携帶品。洗面道具。

一、先生携帶品。(イ)空缶にえをつけた

もの。(ロ)石鹼。(ハ)竹。(ニ)サイフォン

用ゴムホース。(ホ)古葉書。(ヘ)麦

わら。(ト)透明ガラス数個

当園は、商店街の真中に在るが、幸い山に近く自然に恵まれているので、清らかなかけいの水で洗面をさせて、新鮮な空気のもとで色々と遊びを展開させる。

①水を利用した種々の遊びを経験させる

②水遊びの正しい態度を養う

③水の有難たさをわからせる

④夏の遊びとして簡単な理科的な遊びを経験させる

(イ)手拭い、ハンカチの洗濯、(ロ)シャボン玉、(ハ)笹舟、(ニ)古葉書を利用した舟

(ホ)水絵を土の上に描いて遊ぶ、(ヘ)水鉄砲、(ト)水車、(チ)サイフォン

⑤採集、観察の面

(イ)草花は、自然物遊びの製作や葉っぱの形並べ等の遊び。(ロ)昆虫類は、網かごの用意をして、園に持ち帰り飼育させる。(ハ)草花は、又色々と色水を作り

ごっこ遊びをする。(ニ)夏の野菜、果物は、

なぞなぞ遊びで第三までヒントを与えて、遊びを展開させ、後又観察させる。

(ホ)蝶、蟻の巣を見つけ、持ち帰りガラスびんで飼う。(ハ)音あて遊びは

色々な場所に行った時、種々音を聞かせ、音あそびを発展させる。

(例)水の音の聞える時等、音をききながらどんな水の音が好きですか等と問う。又表現させる。・水道から出る音・汲む音・む時の音・洗濯する時

音・汲む音・む時の音・洗濯する時

の音・やかんの湯の沸く音・雨だれの音・谷川の音・滝の音・波の音。

⑥ 鬼ごっこ遊び

⑦ ボール投げ

⑧ 汽車ごっこ

⑨ ままごとあそび

⑩ 木影でのお話、紙芝居、しりとり遊び等を約一時間半位遊ばせて帰園。母の会員(当番制)の作った朝食に空腹を満たし、その日の状況によりお絵描。粘土等をさせ、直射日光のあたらないうちに十一時頃帰宅させる。

良い面

① 早起きの習慣がつく(家庭より報告)

② 遠方の園児も皆喜んで参加出来た。

③ 健康的な面から朝の山の空気が子供達に非常に爽快に感じられた。

④ 毎週園外保育を行う為幼児が行く場所に依り態度が出来て遊びが発展する。

⑤ 情緒方面から見て早起きしたと云う優越感を持ち、道を通る人に誰彼なく挨拶をかます。

⑥ 食欲も日常より良好との家庭よりの連絡があった。

悪い面

① お母様方のお手伝いが家庭との時間と同時間のため迷惑をかけた事。

② 登園時間が遅れると食事全体が遅くなり子供達にひもじさを感じさせたこと改良点として本年度は朝食は各自弁当にして持参する様に計画する。

(四) 登園日の在り方

① 夏休み健康表、生活表を持参。

② 登園順に各組の小鳥、草花(特に朝顔)の様子を見せ、変化、愛護、手入れ、観察を先生と共に行う。

③ 毎週土曜に行っている組解体保育で(環境を整えて)子供達を自由に遊びに入らせる。特に夏期は水遊びの場、木影の場を利用した施設を整えておく

(四) 一応当園で行っている組解体保育をおしらせする。

① 動機 本園は数年前より一斉、並に組内解体のみの保育に各組の部室の広さ等から疑問を感じ幼児は幼児なりに自主性を尊重しなければならぬと云う立場から良い生活の型態(保育型態)と取っこんで来ました。先ず単元を味味して見学、観察、並に健康増進のための園外保育を実施して、経験を豊かにして保育の流れを誘導する。各組には一応の生活環境の場(ままごと、輪なげ、積木、人形、指人形、季節の動植物の飼育栽培、絵画、粘土)設備を作って置き、いつでも使用出来る様にして置く。指導型態は単元を取り入れた環境設備をして組内グループ指導を行い、その他保育の流れにより自由画製作、スクラップ等をする。この場合子供の生活経験から生れた創意を基にして誘導を行い、自由に表現をさせている。グループ指導の時、地域、社会、施設、園児教及び保育室の広さ等の関係により、組内グループ指導では各グループに於て、子供の欲求する程発展させる事



も誘導すると云う事にも困難点があった為、全部の子供が満足出来る様にするのはどの様な型態が良いかを探求した結果毎日行う事は幼児は未だ心身共に未分化であるため、毎日好きな室で、遊びを自分で選ばせると云う事は、段階として無理であり、又躰の面等もルーズになり勝ちである。又その遊びを遊んだ場合、その遊びの場丈でなく、総ての場を整えて置かねばならない。又各組の交流の場を増す事も組内丈の欠点を補える事になると考え、週に二度行つて研究した結果、週に一度行う事が適当と思われるので実施している。

② 解体保育時保育室の環境

(イ) 園庭 遊動円木。ブランコ：八ヶ。ジャングル：一ヶ。スベリ台：二ヶ。太鼓橋：一ヶ。砂場：六坪。砂場遊具：五十個。雲梯：一。シート：二。電車：一。以上の外花壇：三。泉水、田圃あり。  
(ロ) 遊戯室。ピアノ：一。電着。テープレ

コーク。大積木：二組。(イ) 製作室。色紙各種。画用紙。クレヨン。ヒゴ。ハサミ。古箱。マツチ。タバコ。キャラメル。の空箱。包紙。ヒモ。(ロ) 木工室。ノコギリ：十ヶ。カナヅチ：十ヶ。キリ：五ヶ。木切れ：若干。針金：若干。釘：若干。ねじまわし：三ヶ。色紙各種。えのぐ。筆。(イ) 粘土室。貯蔵していたどろ粘土を各自に自由に与える。ヒゴ。粘土板。粘土ペラ。色紙各種。草花葉。単元を最大限に発展出来る様に諸準備をして置く。(ロ) 打楽器室。打楽器一揃。疑音器。(イ) 絵画室。模造紙四分一の大さきの紙。イーゼル：十六台。えのぐ。筆。クレヨン、画用紙。作品展覧針金。(イ) ままごと遊び、砂場、園庭：(屋外、木陰利用) ママゴト道具一式：五組。ゴザ：十枚。人形遊びの道具。(ロ) 水遊びの場：早朝保育で経験した色々の遊びの場を作つておく。ジョウロ。水汲みバケツ：数十個。泉水、噴水。

③ 誘導法

(イ) 先生が各部屋での計画を、意図的にならない様に、出来る丈子供が発達段階、経験から生れた自発性、創造性を伸ばす様に整備誘導する。特に夏期は、子供の心身にふたんのかからない様気をつける。(ロ) 特に解体保育は、環境の設備に重点を置き、季節の自然物や、地域社会の行事等も取り入れた遊びに、子供自身から入り度くなる様に用意して置く。(イ) 教師は同一単元の続く期間中、担当グループは同じ処で指導。

④ 評価

(イ) 幼児の解体保育に対する関心調査

	すき	どちらもすき	嫌い
年少	75%	25%	なし
年長	90%	10%	なし

(ロ) 全園児を通じて社会性が大変豊かになった。年少児を可愛がる面が多分に見られる様になった。(イ) 喜んで自分の好き

な遊びに自主的に入り、伸び伸びと展開して行く事が出来た。(二) 解体保育の日は、特に自分で何かをしようとする意欲を持って期待している。週に一度であるため、今の欠点は見受けられないが、解体保育時の目標は、特に先生が意図的にならない様、自由保育を主体にし、幼児の自発性をうまく誘導する能力が教師に必要となる。

夏休みは子供が心身共に疲れ易い時期なので、朝の涼しいうちに園で適当な環境の中で、幼児が最も喜んで遊ぶ遊びを展開させる事が、一番幼児の夏期保育として適切と考え、本年度より実施する。

(四) 家庭での生活指導、並に種々の遊びの環境設定等は、母の会を開き、プリントと共に詳しく説明をして指導する。

(五) プリント内容は紙面の関係上簡易なみにして一部おしらせする。

①夏休み期間 登園日の知らせ。

②お母様方による幼児用おくるみ、指人

形製作の件

③大掃除(母の会員による園の掃除)

④一学期園でつけた駄をこわさない様にお母様方の家庭での協力の方法を具体的にしらせる。

⑤夏期健康表、生活表のつけ方の説明。

⑥保健衛生上の詳しい説明。

⑦絵日記について。

⑧子供達の動植物の採集のお母様方へのりあげ方について。

⑨夏休みがおわってからの展覧会について。

⑩理科的あそび、製作、科学的あそび、いろいろのあそびの場の作り方を紹介。

⑪夏の自然物の観察のさせ方。

⑫童話のいろいろの紹介等を行う。

(福岡県 双葉幼稚園)

☆幼児教育界におくる

倉橋惣三先生の二著

幼稚園真諦

B 六判一四六頁 定価一八〇円

子供讃歌

B 六判二三四頁 定価二六〇円

倉橋惣三先生が、永年に亘り考究された幼児保育の真のあり方を、体験によるうらづけと、先生の美しい心のままに、平明に描かれた書で、幼児教育にたずさわる先生方が、必ず一度はお読みになつて、ほんとうの意味の幼稚園の理解と、倉橋先生のりっぱな児童観を、会得していただきたいと思ひます。

株式会社 フレーベル館